

令和5年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（127） 学校名 豊田市立藤岡南中学校

1 テーマ

地域とつながり、地域とともに生きる

2 ねらい

目指す生徒像である「広い視野をもち、よき地球市民として主体的に行動できる生徒」を育成したい。そのために、具体的な目的・課題を生徒自身が設定できる場として、地域と関わる機会を設定する。その中で、見通しを立てて活動することで、生徒たちは自分ごととして役割に責任をもち、学校で学んだ力を活かして主体的に取り組むことができると考える。

3 活動内容

4月 ・フジバカマの育成（地域学校共働本部と連携）
 アサギマダラを飛来させるために第3フジバカマ園の造成・育成。環境委員の生徒が中心となって、観察や水やり。

10月 ・2年生「地域合同防災フェスタ」（地域と連携）
 47 災害について地域の方と協力して、防災に関するブースを運営する活動を実施。

5月 ・3年生総合的な学習（地域の人材や公的機関、企業と連携）
 地域の魅力を再確認するためにインタビュー活動を行い、自分たちができるることを考えて、地域の方々とともに貢献活動を実施。
 （活動例：地域の小学生が楽しめるふれあいフェスティバルを企画しよう、企業と連携してSDGsに取り組もう、地域食材を活かしたスイーツを洋菓子店とコラボレーションして作ろう、公共施設の魅力を紹介する動画を作ろうなど）

7月 ・3年生ボランティア（地域高齢者クラブと連携）
 地域の魅力を再確認するためにインタビュー活動を行い、自分たちができるることを考えて、地域の方々とともに貢献活動を実施。
 （活動例：地域の小学生が楽しめるふれあいフェスティバルを企画しよう、企業と連携してSDGsに取り組もう、地域食材を活かしたスイーツを洋菓子店とコラボレーションして作ろう、公共施設の魅力を紹介する動画を作ろうなど）

8月 ・ぞうきん製作ボランティア（地域高齢者クラブと連携）
 3年生ボランティアが、地域高齢者クラブの方々と一緒に、ぞうきんをミシンで製作。

10月 ・ふれあいフェスティバルでの発表等
 防災に関する体験型ブースの設置。
 （内容：救急救命体験、煙道体験、避難体験、災害対応スキル講座など）
 ・魅力ある藤岡南地区について、来場者に様々な形態での披露。
 （内容：地産地消を意識した地域洋菓子店とのコラボ商品販売、地域企

業と連携した産業端材を活用した小物作り、地域緑化センターの紹介ブース、ポプリ＆ハーバリウム製作ブースなど)

10月・プランターでの花栽培（地域ボランティアと連携）

（内容：交流館を訪れる方の目を楽しませたい、地域で育つ園児や小学生の卒園式・卒業式に貢献したいという思いで、環境委員や3年生ボランティアが地域のボランティアの方と一緒に花を栽培。）

4 成果と課題

ようやく日常生活を取り戻し始めた1年であったが、保護者アンケートの「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動をおこなっているか」では、【とてもよくしている：13%、よくしている：61%】と、昨年度の8割を割り込む結果超える前向きな結果が出ている。ホームページやきずなネットを活用し、日常の様子やおたよりが家庭に伝わるようにしていることが大きな一因であると考える。だが、【分からない】の項目が昨年度の16.4%から今年度は23%と増加が続いている。保護者の立場で考えた情報提供を心がけ、今後の活動に対する理解を得たい。

今年度は、1年ぶりにアサギマダラの姿が目撃された。環境委員会が中心となって、4月当初から栽培育成を行ってきたフジバカマ園の管理を行ってきた成果であると考える。環境委員会では、より大きな成果を出そうと第3フジバカマ園の造成について、立地条件や広さを吟味しながら議論している。

2年生の総合的な学習の時間で、「ミナミの『もしも…』～102のレンジャーがつなぐ藤岡南～」をテーマに、防災について調べ学習を進めた。その中で、この地域が約50年前に被災した47災害について知り、地域学校共働本部と連携して、被災現場の現在と当時を見比べたり、インタビューを行ったりする「ふるさとウォーク」を実施した。泥流に呑まれた地域住民を救おうと尽力された方々の話を聞き、生徒たちは自分たちも地域の防災のために何ができるか考え、それぞれが視点をもって調べるようになった。さまざまな災害に対してどう備えればよいか考える中で、知識を増やすだけでなく体験することで危機に対応できると考えるようになった。地域のふれあいフェスティバルでの体験型ブースの運営・実施は、地域の小学生も共助の大切さを理解したり、命を守る行動を習得したりする絶好の機会となった。参加した保護者や地域住民からは「楽しみながら学べるようになっていて、とても良かった」という声が聞かれた。

3年生は総合的な学習の時間で、地域の良さを伝えながら地域の人とともに「藤岡南地区」を盛り上げようと、公共施設や企業を訪問したり、講師として招いて思いを聞いた。その中で、自分たちが考える地域の良さや望ましい未来像と、講師の方々が語る地域像の相違点を比較し、地域のために自分たちに何ができるのかをそれぞれが考え、藤岡南ふれあいフェスティバルで実現させようと取り組んだ。当日は、植物の魅力を知ってもらおうと緑化センターの方から教えていただいたポプリやハーバリウムの製作ブースを用意したり、地域の農産物を活かしたスイーツを地域の洋菓子店と協同で開発・販売したり、地域企業と協同して製造時に出る端材を活用したSDG

s企画を行ったりするなど、積極的に連携した取り組みを行った。自らが企画した活動を地域の方々と共にする中で、「自分たちも地域の一員である」という思いがより大きくなつた。今後も思いをかたちにするための手立てを工夫し、生徒主体で地域に働きかけられるよう支援していきたい。

校内整備員が配置されたことで手入れが行き届き、緑豊かに校地内環境を維持することができた。また、生徒が作業しやすいように道具置き場が整備されたことで、準備片付けにかかる時間が削減され、実質的な活動時間を増やすことができた。

心の相談員が配置されたことで、教師ではない立場からのアプローチが可能となり、多様な悩みをもつ生徒が前向きに学校生活を過ごすようになっている。本年度については、相談室を利用する生徒のうち5名が、教室で授業を受けようとステップアップを目指している状況である。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・フジバカマの育成やアサギマダラの飛来等、ホームページで適宜更新（計7回）した。
- ・学校だよりで、取り組みについて紹介（計7回）した。
- ・藤岡南ふれあいフェスティバルでは、特色ある学校づくり推進事業の取り組みについて、発表や体験ブースを通して、保護者や地域の方にも参観していただいた。